



# 潮香だより

第 13 号  
(本年度最終号)

発行日：令和2年3月19日(木)  
発行責任者：校長 坂本 貴洋

## 春風接童 秋霜自肅

管理棟前のプランターに植えたチューリップの球根が芽を出しています。前校舎南側の桜の蕾が日ごとに膨らんできています。確実に春の足音が近づいてきています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休校から2週間余り、1年間のまとめでもあるこの時期に友達や先生方と過ごすことができなかつたことは、子ども達にとって本当に辛かつたと思います。1～5年生の修了式の中止、規模を縮小しての卒業式の実施と、このようなかたちで1年間を締めくくってしまうことが残念でなりません。本日、1～5年生については「修了証書」をお渡ししました。現学年の修了、おめでとうございませう。6年生については、23日に「卒業証書」をお渡しします。ご卒業おめでとうございませう。担任からの通知票をよくお読みいただき、学校での様子を振り返っていただき、次年度への準備をよろしくお願ひします。

さて、江戸時代の儒学者・佐藤一斎が「言志四録」で述べた言葉に、次のようなものがあります。

### 「以春風接人 以秋霜自肅」

(春風を以て人に接し、秋霜を以て自らを肅しむ)

かつて、私が勤めていた学校の校長室にはこの言葉を真似て「春風接童 秋霜自肅」と書かれた額が掲示されておりました。「春風のように優しい心で子ども達に接し、秋の霜のように厳しく自分を律する」という意味です。この言葉を掲示された当時お仕えした校長先生は、こう話してくださおりました。

「時々、この額の前に立ってこの言葉を見ながら、子ども達や先生方への接し方を省みるようにしているんだよ。」と。まだ若かつた私には、言葉の意味や校長先生の意図を十分に理解することはできませんでした。

今は、この言葉を次のように受け止めておます。

「春風接童」とは、教師の子どもへの関わり方の基本的な心構えを説いているのだと思います。暖かな春風のように子どもと接することは、決して子どもを甘やかすことではありません。愛情を持ちながら、間違いを正し、過ちを諭すことです。表面的な優しさだけではなく、子どもの心に共鳴・共感しながら関ることが教師として大切なことだと伝えたかつたのだらうと思います。子どもは自分のことを愛してくれているから、真剣に向き合ってくれているのかを肌でいつも敏感に感じているのです。どのような指導も「愛」がなければ

ば子どもには響かないと思います。

「秋霜自肅」とは、教師が子どもに教えることの厳しさを説いたのだと思います。特に、心身ともに成長期にある小学校の場合は、教師が子どもに及ぼす影響は計り知れないものがあります。その責任の重さを自覚し、自らの指導が子どものよりよい成長や変容につながっているのかを常に自問自答することが必要です。教師は自分を甘やかしてはいけなかつたのです。教師は自らが学び続ける存在でなければならなかつたのです。専門職として、不断の努力を重ね、結果に責任を持つことの大切さを伝えたかつたのだと思います。

令和元年度を締めくくるにあたって、改めてこの言葉を思い出し噛み締めているところなんです。

1年間、保護者や地域の皆様に信頼される学校づくりを目指して取り組んできました。運動会・学習発表会・持久走記録会などの校内行事、陸上競技大会・方部音楽祭などの対外的行事、そして日常の学習指導や生活指導など、教師の努力が子ども達の頑張りを生み出し、それぞれの中で素晴らしい成果を上げることができました。学校として全力を尽くしてきたという自負はありますが、学校がさらに進化していくためには、まだまだ改善しなければならなかつた面が多々あると思います。

次年度は、「春風接童 秋霜自肅」を心に留めて、さらに努力を重ねていきたいと考えておます。本年度の保護者・地域の皆様のご協力に感謝を申し上げるとともに、次年度も変わらぬご支援をお願いいたします。

1年間、本当にありがとうございました。

### 【今後の予定等】

- ・ 3月23日(月) 卒業証書授与式  
※6年生児童及び保護者のみ参加
- ・ 3月24日(火)～4月5日(日) 春休み  
※期間中の子ども達の登校はありません。
- ・ 3月24日(火)教職員人事異動公表  
※午後に一斉メール等でお知らせします。  
3月27日(金)に予定しておりました「離別式」は、実施しません。

★4月6日(月)の入学式・第一学期始業式の実施の可否については、いわき市教育委員会より連絡が入り次第、一斉メールおよびホームページでお知らせします。